

第50回 関東甲信越地区退職校長会連絡協議会長野大会発表資料

研究協議題 生きがいのある人生を送るための退職校長会のあり方

～会員相互の交流や社会参加を通して、楽しく豊かな人生を送るために～

埼玉県

共通課題

(1)「入会率を高め、途中退会者をなくす」という課題に対して、どのような取り組みを行っているか。また、そこでの問題点は何か。

1 「入会率を高めるため」にどのように向き合っているか。また、その課題について

本県も他県と同様、年代別構成は逆ピラミッド構成となっている。したがって、特に「新入会員100%」を目指して努力しているところである。そこで、入会率を高めるために、埼玉県退職校長会(以後、本会とする)の活動状況を早く正確に伝える手だてとして、退職1年前の校長全員に次の方法で呼びかけている。

(1) 適切な資料を準備して伝える。

本年をもって最後となる校長に、各支部や班の面識ある退職校長が、本会作成の会報(年3回)、ニュースレター(年2回)、入会の案内(A3両面カラー版)、今後の年金制度の在り方と本会からの国への働きかけ、また、各支部のニュースレターや入会案内などの資料を直接持参し、本会や各支部・班の意義、活動の重点について伝える。

(2) 事前に連絡を取り、直接学校を訪問して伝える。

①その学校の課題等を聞きながら、本会の趣旨説明と現状(行事の中には、県教育委員会共催のものもあること等々)を説明する。(現職校長の最後の1年間で、持てる力を十分に発揮できるように、早い時期に！)

(3) ホームページの紹介

①本会と各支部の活動の状況がホームページに紹介されている旨を伝える。(本会の歴史や足跡がわかり、また、他の支部、班の活動の様子もよくわかるという声もある。また、現会員からも、自分の支部、班の活動の進め方に大いに参考になっているという声もあり両者に有効である。)

(4) 「研究助成金」の支給

①本会会費の中から、「研究助成金」として各支部会員数に応じて配布していることを知らせる。その額は一昨年から50%アップし、本年もすでに7月に「庶務会計部会」に於いて配布した。その会議の中で「支部の研修部活動にゆとりができた。より多くの会員が参加できる研修計画を立てたい。支部や班の要望が実現し、会員が大変喜んでいて」という声も出された。金額としてはわずかではあるが、今後、額に勝る活用をして、各支部の活動が活性化し、本会に加入してよかったと思えるイベントになるよう願うところである。

(5) 誰が呼びかけに行くか

①元〇〇職という人、各支部の役職にある人、また、以前から交流がある人等について事前に適所に適材をおくる検討をすることもかなりの重要部分を占める。現職中からの付き合いも大いに大事である。現職校長の学校の研究発表会などには現職時の勤務校とは関係なく退職校長が積極的に出席している。

②既会員一人ひとりがその気になって活動することも強く求められる。そのために、本会としては、専門部会・支部長会・理事会等諸会議が伝達だけでなく、意見やお願いごとが自由に言える雰囲気を作ることに努力している。また、それらの意見等の扱いについては、できるだけ納得できる話し合いとなるように努めている。

2 途中退会者を無くすためにとその課題について

(1) 途中退会者の中には、高齢と体力減退、施設への入居や孫との同居等で転居するなど自力で会費納入することが困難であるという理由の会員もいる。

① 88歳以上会費納入は免除している。

② 上記に該当しない人は、各支部の担当者が、自宅訪問をしている。

③ 逆ピラミッド構成が加速する現在、「免除」や「一定の年齢に達したら、一定の額を納入しその後は、永久会員とする」など検討する時期に来ているという考えも出ている。

(2) 60歳から88歳まで、一律の年会費でよいか

① 定年制延長論や、元気でやる気があるなら80歳までという会社も出てきている昨今である。

近々にその流れは公務員にもと考えられる。

② 一律の年会費ではなく、「65歳までの年会費」の額についてなどスピード感をもって検討してはという声もある。

(2) 「会員相互の交流や社会参加」という課題に対して、どのような取り組みを行っているか。

また、そこでの問題点は何か。

1 帰属意識が高まり、生き甲斐が感じられる取り組みについて

(1) 本会の目的について常に原点に戻り、問うことを忘れてはならないと考える。

以下に、そのための着眼点をいくつかあげてみる。

① さすが退職校長会と言わせる事業には何かがあるか ② 入会によるメリットは何か

③ 個を尊重しているか

④ 束縛や強要と感じられるものはないか

⑤ 現職校長会との交流の持ち方、内容はどうか ⑥ 参加したら、自分の居場所があったと思うか

⑦ 参加してよかった！ 次の機会はいつか？ 楽しみだな！ と思える事業は何か

上記の着眼点を満たすために、本会・支部・班が一丸となって魅力ある事業に取り組んでいるところ

である。57班の活動は、いずれも会員数や地域の範囲が手ごろで小回りが利き、好評である。

HPでの紹介や、総会で生の声を聴くのも効果的であり、参考になったという喜びの声もある。

近隣の班が合流して実施し、班、支部のまとまりが強くなったという声もある。

2 課題について

(1) 事業計画に当たり、より多くの声を吸い上げているか。

① 会員からの声を吸い上げる手立てとして、HP・メール等を活用し、ボトムアップにより、会員の声に謙虚に耳を傾けるよう努めている。

(2) 本部が活用できる予算にも限界がある。

① 現状では会費値上げは考えられないので、総会の代議員数を少なくする検討をし、今年度からすでに実施している。

② 諸会議の開催時刻(午前開催か午後か)については、午後の会場確保が容易であることと会員の昼食代のこと等を考慮して、午後開催にしている。

※ 付記

個人情報保護条例に則り、一昨年から「個人情報考慮した会員名簿の作成」に取り組んだ。

一般会員用の名簿と本部、支部の幹部用の名簿の2種類作成した。本部幹事の中に、パソコンに堪能なメンバーが中心となり、各支部・班の担当者に大いに協力してもらい一昨年度末に完成し配布完了した。作成は5年毎である。なお、新会員名簿は毎年追加している。